

となる。この式から簡単な計算で

$$(1.30) \quad \begin{cases} \frac{\partial^2 f}{\partial x^2}(0,0) = 2H_{11}(0,0) \\ \frac{\partial^2 f}{\partial x \partial y}(0,0) = \frac{\partial^2 f}{\partial y \partial x}(0,0) = 2H_{12}(0,0) \\ \frac{\partial^2 f}{\partial y^2}(0,0) = 2H_{22}(0,0) \end{cases}$$

を得るが、はじめに注意しておいたように、いまは1番目の式の左辺は0でないと仮定している。したがって、 $H_{11}(0,0) \neq 0$ 。  $H_{11}$ は連続だから、

$$(1.31) \quad H_{11}(x,y) \text{ は } (0,0) \text{ の近傍で } 0 \text{ でない。}$$

ということがわかる。

そこで、原点、 $(0,0)$  の近傍で新しい  $x$  座標  $X$  を

$$(1.32) \quad X = \sqrt{|H_{11}|} \left( x + \frac{H_{12}}{H_{11}} y \right)$$

という式で導入する。  $y$  座標はそのままにしておく。  $(x,y)$  と  $(X,y)$  の間の Jacobi 行列を計算してみると、その行列式が原点  $(0,0)$  で0にならないことがわかるので、確かに  $(X,y)$  は原点  $(0,0)$  の近傍の局所座標系である。

$$\frac{\partial(X,y)}{\partial(x,y)} = \begin{pmatrix} \sqrt{|H_{11}|} & \sqrt{|H_{11}|} \frac{H_{12}}{H_{11}} \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad \det \left( \frac{\partial(X,y)}{\partial(x,y)} \right) = \sqrt{|H_{11}|}$$

$X$  の2乗を計算すれば、

$$(1.33) \quad \begin{aligned} X^2 &= |H_{11}| \left( x^2 + 2 \frac{H_{12}}{H_{11}} xy + \frac{H_{12}^2}{H_{11}^2} y^2 \right) \\ &= \begin{cases} H_{11} x^2 + 2 H_{12} xy + \frac{H_{12}^2}{H_{11}} y^2 & (H_{11} > 0) \\ -H_{11} x^2 - 2 H_{12} xy - \frac{H_{12}^2}{H_{11}} y^2 & (H_{11} < 0) \end{cases} \end{aligned}$$